

## 2025 年 11 月 30 日（日）第二礼拝「主の御名を呼ぶ者」ヨエル 2 章 25～32 節

ヨエル 2 章は、悔い改めを強調している章です。この世を信じ、主の約束を信じなかったことを悔い改めるようにと主は言われます。主の御名は約束であり、主の御名を呼ぶ者は救われます。今日の本文には、主の働きのために経済が回復されることと、主の霊がすべての人に注がれ、艱難な時代であっても、主の働きができるようにされると約束されています。

第一番目、回復です。「いなご、ばった、食い荒らすいなご、かみつくいなご…が食い尽くした年々を、わたしはあなたがたに償おう。」と主は言われています(本文 25 節)。主がなされる不思議なことを通して、主の名がほめたたえられ、主の民が永遠に恥を見ることはないと約束されています。終末の時である今、多くの預言者は、富の移動があると預言しています。それは、神様の計画が神様の民によってなされるためであり、神様の目的に沿った富の移動です。神様はイスラエルをエジプトから脱出させる時、モーセを通してパロに「わたしの民を行かせ、荒野でわたしのために祭り(礼拝)をさせよ。」と言われました。その時、エジプトはイスラエルの民に好意を持つようにされ、彼らに金銀、着物を与えました。主は、それらのものをエジプト(この世)からはぎとるように言われました。それらの富をもって、神様の住まいである幕屋を作らせるためです。これが富の移動です。

第二番目、幕屋の中に主がともに住んでくださいます。「イスラエルの真ん中にわたしがいることを知り、わたしがあなたがたの神、主であり、ほかにはない…」(本文 27 節) 私たちが神様に礼拝し、祈る時、主がともにおられます(インマヌエル)。ダビデもまた、いつも自分の前に主を置いていました。ダビデは、主がともにおられることを体験していたのです。この教会の姉妹は、祈っている時、幻を見、夢も見ました。この教会に開いた門があり、たくさんの人々が土足で入って来られ、教会の中にはイエス様がおられたということです。皆がイエス様に会うために来る、これがリバイバルです。イエス様の教えておられる所に人々が集まり、戸口のところまで隙間もないほどになったと聖書にある通りです(マルコ 2:2)。

第三番目、主の御名を呼ぶ者は救われます。主の御名は約束です。その御名の約束を信じ、主を呼ぶことが大切です。ヨシャパテ王の時代、アモン人、モアブ人、セイル山の人々が攻めて来ました(II 歴代誌 20 章)。ヨシャパテ王は断食して祈り、国民にも断食を布告しました。その時、主は「おびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。…この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから。」と言われました。そして、ケハテ族、コラ族のレビ人たちが立ち上がり、大声でイスラエルの神、主を賛美し始めました。その時、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来た大軍を襲わせたので、彼らは打ち負かされました。このように、主の約束を信じて祈る時、私たちの問題は主の問題、主の戦いに替わります。主の御名を賛美し、主を呼ぶ時、奇蹟が起こり、敵に勝利することができるのです。「主の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる(本文 31 節)」とは、七年間の患難時代を指しますが、このような状況であっても、主の名を呼ぶ者は皆救われます。アーメン！